

平成18年度「魅力ある大学院教育イニシアティブ」:

〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」事業の概要について

平成18年度実施責任者
人間文化研究科・国際日本学専攻長
古瀬 奈津子

お茶の水女子大学におきましては平成17年度の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」人社系に採択されました「〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」プログラムが今年2年目をむかえました。本プログラムは、現代社会が直面する諸課題について、日本学を中心に、他分野・他領域との「対話」を行いながら専門性を「深化」させ、日本を対外関係のなかで相対的に把握することができるような国際的な視野をもった女性リーダーの育成をめざしています。大学院博士後期課程の国際日本学専攻を中心とし、比較社会文化学専攻とジェンダー学際研究専攻とが連携して行う大学院教育プログラムです。

具体的な教育プログラムとしては、①国際的なジョイント教育により大学院生の学際的・国際的研究能力を高めること（海外提携大学などとの共同ゼミ・シンポジウム）、②学際性を深めるために副専攻制度を施行すること（男女共同参画リソース研究・文化マネジメント研究）、③博士学位取得のプロセス・審査を透明化し、そのためのスキルを開発すること（学生海外調査研究、英語アカデミック・プレゼンテーションの開講）などがあげられます。これらのプログラムの実施を通じて、博士前期課程・後期課程一貫教育の実質化をはかり、博士論文の早期完成へと導くプロセスを明確化してまいりました。

ここに纏めました報告書は、このうち平成18年度に実施された学生海外調査研究と海外提携大学院などとのジョイント教育の成果です。

学生海外調査研究は、学生が自ら作成した調査計画に基づいて海外において調査研究を行うもので、博士論文作成を直接的実質的に支援する企画です。今年度は昨年度をはるかに上回る人数の学生が応募し、選ばれた学生は充実した調査研究を行いました。その成果を指導教員のコメントとともに掲載いたしました。

海外提携大学院などとのジョイント教育については、今年度は北京外国語大学北京日本学研究センターとの日本語教育学に関する共同ゼミ、同じく歴史と文学に関する共同ゼミ、台湾大学大学院との日本文学に関する共同ゼミ、ロンドン大学アジアアフリカ研究学院（SOAS）との日本学に関する共同ゼミ、ヴァッサー大学との現代日本のカルチャーに関する交流プログラムなどが行われました。このような国際的な教育の場が与えられ、海外の教員から異なる視点による指導を受けることができ、また学生同士発表の機会があったことは、博士論文作成にむけて大きな動機づけとなったと言えます。

以上のような経験をふまえ、本学大学院学生が社会的使命と学問の発展への貢献を認識し、女性リーダーとして羽ばたいていくことを祈念します。